

首都圏中央連絡自動車道 五霞高架橋(下部工)工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	図面 80/303～85/303 138/303～139/303 199/303～201/303 246/303～249/303 301/303～302/303	鋼矢板中心線と躯体(フーチング)との離隔は500mmとなっていますが、型枠設置後の鋼矢板凸部表面と型枠との隙間は200mm程度となり、高さ1900mmのフーチングの型枠設置、解体作業は不可能と考えられます。型枠設置、解体作業に必要なスペースを確保するための対策は、設計変更の協議対象と考えてよろしいでしょうか。	監督員が必要と認めた場合は、設計変更の対象になるものとお考えください。
2	図面 80/303～85/303 138/303～139/303 199/303～201/303 246/303～249/303 301/303～302/303	鋼矢板中心線と躯体(フーチング)との離隔は500mmとなっていますが、鋼矢板凸部表面と躯体との隙間は300～375mmであり、標準的な埋戻し作業は不可能と考えられます。埋戻し作業に関する対策は、設計変更の協議対象と考えてよろしいでしょうか。	監督員が必要と認めた場合は、設計変更の対象になるものとお考えください。